あいちデジタルヘルスプロジェクト
ご紹介資料

2026年5月末日時点

あいちデジタルヘルスコンソーシアム

あいち
デジタルヘルス
コンソーシアム
Aichi Digital Health Consortium

目　次

1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要

①　プロジェクトの背景

②　プロジェクトの方向性と目指すべき姿

③　サービスデザイン

2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組

①　プロジェクトの構成

②　事業のロードマップ

3　サービスの創出

4　プラットフォームの開発・運用

5　コンソーシアムの運営

6　年間スケジュール

目　次

1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要
①　プロジェクトの背景
②　プロジェクトの方向性と目指すべき姿
③　サービスデザイン
2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組
①　プロジェクトの構成
②　事業のロードマップ
3　サービスの創出
4　プラットフォームの開発・運用
5　コンソーシアムの運営
6　年間スケジュール

1-① プロジェクトの背景_愛知県におけるイノベーション・エコシステム形成に向けた取組

- 本県では、**STATION Aiを中核拠点とする「Aichi-Startup戦略」と「革新事業創造戦略」を両輪として、イノベーション・エコシステムの形成に向け、推進**している
- そして、現在、革新事業創造戦略の目的である、**社会課題の解決と地域の活性化を図る官民連携プロジェクトとして、「デジタルヘルス」、「農業」、「モビリティ」、「スポーツ」、「環境」の５プロジェクトを推進**している。

©Aichi International Arena Co.,Ltd.

1-① プロジェクトの背景_あいちデジタルヘルスプロジェクトの立ち上げ経緯

➢ 超高齢社会が進展し、**「団塊ジュニア世代」が65歳以上となる2040年に向けて医療や介護が必要な人々が急増する一方、その担い手は大幅に不足する見込み。**

《 2040年の愛知県では・・・ 》

県民の**約3人に1人が65歳以上の高齢者**(約223.8万人)となり、65歳以上高齢者に占める要介護 (要支援)認定者数は約43万人(約20%)となる。

65歳以上高齢者の約4人に1人が認知症者(約54.6万人)となる一方、約3万5千人の介護職員が不足する。

《 医療福祉分野に関する外部環境、地域の強み 》

国や諸外国における次世代のヘルスケアの進展

- 医療DXの進展
- PHR(個人健康情報)の利活用
- ウェアラブルデバイスの普及

など

愛知県における医療・福祉分野の施策展開

- あいち福祉保健医療ビジョン

⇒ 「健康寿命の延伸」や「QOL維持向上」の取組推進

地域の強みを生かした施策展開

- 国立長寿医療研究センター（大府市）等の研究シーズ
- STATION Aiを中核とするスタートアップの集積

超高齢社会の危機の克服に向けた新展開

「あいちデジタルヘルスプロジェクト」の立ち上げ（2024-2028 国の交付金事業に採択）

あいちデジタルヘルスコンソーシアムの設立（2023年9月6日）

プロジェクトの推進母体として、産学官金からなる33団体が発起人となって設立。

・・・2026年5月現在、100を超える団体が参画

1-② プロジェクトの方向性と目指すべき姿

- デジタル技術を活用し、産学官金の連携により、**「健康寿命の延伸」**と**「生活の質（Quality of Life）の維持・向上」**に貢献する各種サービス・ソリューションの創出・提供を目指す。
- この取組を通じて、**「誰もが安心して、元気に暮らせるあいち」**、研究機関や企業が集積する**「健康長寿産業都市あいち」**の実現を目指す。

健康寿命の延伸

- 健康診査の受診を始め、健康意識を持つことが当たり前の地域
- 容易に自身の健康状態を把握でき、運動・認知機能の低下予防行動が当たり前の地域
- 普段の生活の中で使うサービスを通じ、自然に健康になる地域

生活の質（QOL）の維持・向上

- 誰もが社会参加やスポーツ・娯楽などを楽しむことができる地域
- 支援が必要になっても、住み慣れた地域で住み続けることができる地域
- いつでもどこでも必要なヘルスケアサービスを受けることができる地域

取り組みの３つの柱

01 フレイルへの進行予防

運動・認知機能の低下予防に資するプログラム・アクティビティを継続するための動機付けを通じ早期予防を実現

02 生きがいづくり

「わくわく」する楽しめる場や時間を提供し、外出の促進や社会参加の機会を創出

03 地域居住・生活支援

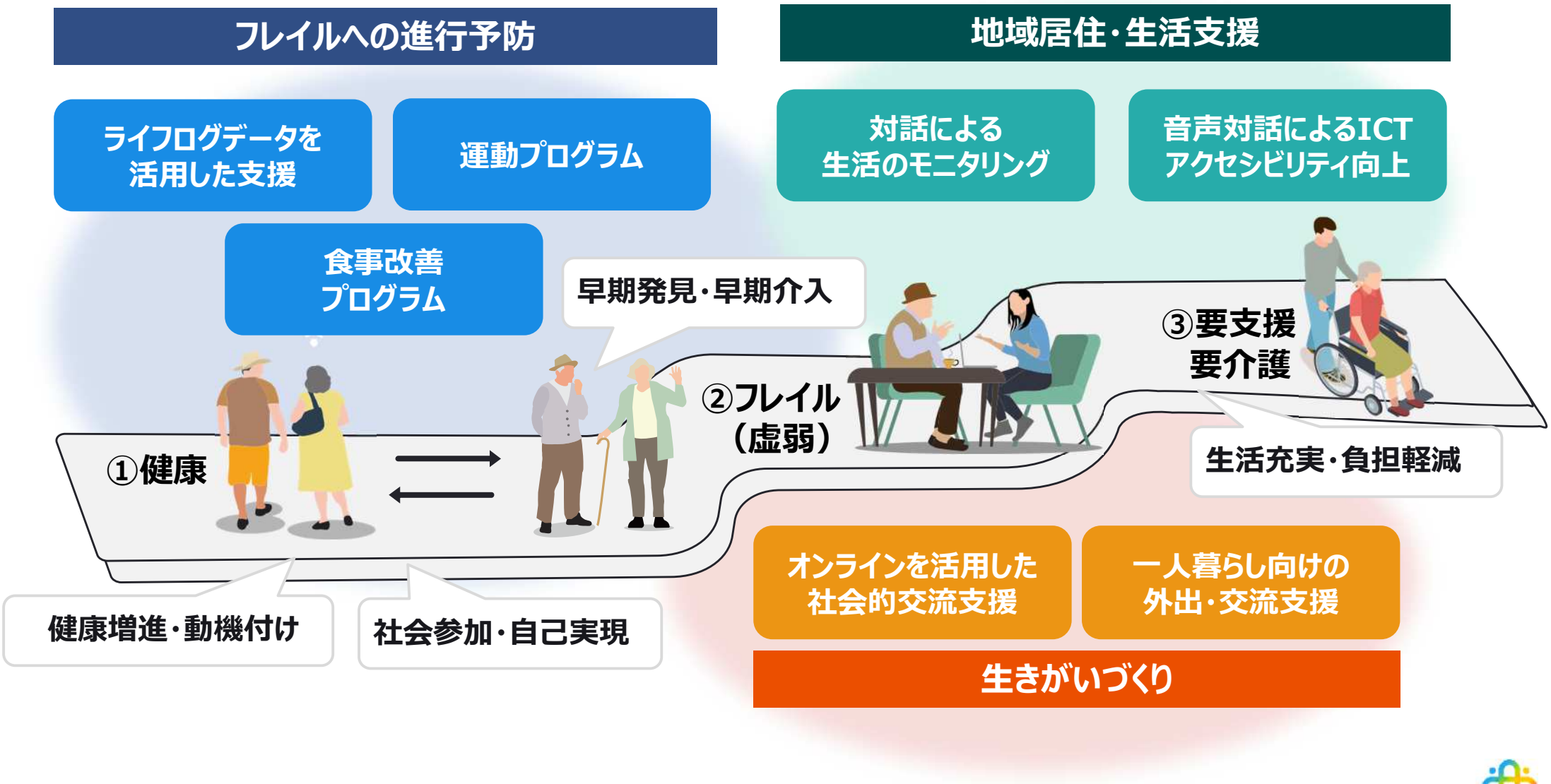
誰もが安心して住み慣れた地域で自分らしく暮らせる環境を整備し「誰一人取り残さない」地域を実現

誰もが安心して、元気に暮らせるあいち

健康長寿産業都市あいち

1-② プロジェクトの方向性と目指すべき姿_健康な段階からの支援

- 「健康寿命の延伸」と「生活の質（Quality of Life）の維持・向上」を目指して、**高齢者を主としたライフステージ（①健康～②フレイル(虚弱)～③要支援・要介護）**を想定
- プロジェクトでは、医療の手前の段階を主なターゲットに、楽しく元気な生活をサポートするサービス開発を推進



1-③ プロジェクトの方向性と目指すべき姿_サービスデザイン

- 高齢者（シニア含む）の方々にスマートフォンを活用して健診を軸とした行動変容を促し、自然と健康になれる体験を通して、健康寿命の延伸とQOL（生活の質）の維持・向上を目指す。
- プロジェクトで創出されたサービスはポータルを介して提供していく。

2025年10月版

認知・興味 → ダウンロード → 健診 → サービス利用 → 気づき・見える化 → 効果・継続

地域・行政・企業等が一丸となった利用促進

企業
- 店舗・商業施設でのPR
- デジタルサービスから送客

地域・自治体
- 公共施設、通いの場
- 公式LINE・郵送物

その他
- 職場での利用案内
- ご家族からの勧め

ポータル ＆ 個別サービス

ポータルで効果の可視化とインセンティブでやる気の意向上

サービス利用で課題・変化への気づき

- 健診結果登録・表示
- ライフログデータ表示（歩数・BMI等）
- インセンティブ・動機づけ（歩数ランキング、抽選）

健康状態の把握や運動・食事改善を促すサービス

孤立対策や社会参加を促進するサービス

高齢者と支援者の負担を軽減するサービス

データ連携基盤

地域社会全体が効果を実感

利用者
- 健康の維持・向上
- 生活の楽しみ

企業
- サービス創出・改善
- 顧客獲得

自治体・健保組合
- 医療費適正化
- 保健指導の効率化

等

目　次

1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要
①　プロジェクトの背景
②　プロジェクトの方向性と目指すべき姿
③　サービスデザイン
2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組
①　プロジェクトの構成
②　事業のロードマップ
3　サービスの創出
4　プラットフォームの開発・運用
5　コンソーシアムの運営
6　年間スケジュール

2-① プロジェクトの構成

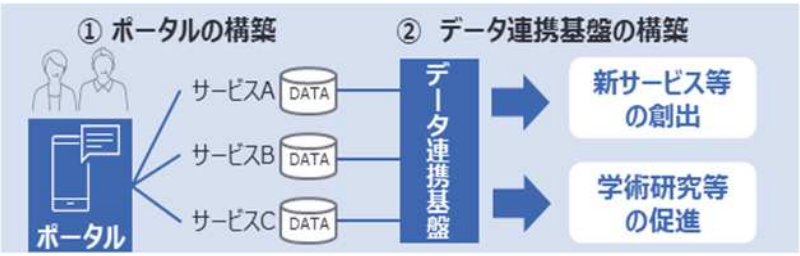
- プロジェクト活動は、**「サービスの創出」、「プラットフォームの開発・運営」、「コンソーシアムの運営」**があり、事務局がハブとなり、支えていく。
- 活動を通じてノウハウを蓄積・活用しながら、多くのサービスの社会実装と多くの県民のサービス利用を目指す。

サービスの創出

- **社会実装先行事業**
  - ７つのテーマ（食事・運動改善等）に基づくサービス開発・実証を通して社会実装を目指す事業
- **共創促進事業（新サービス創出）**
  - 上記テーマ以外に様々なサービスを創出し、社会実装につなげる事業

プラットフォームの開発・運営

- **ポータル開発・運営**
  - 創出されたサービスを一元的に県民に提供するポータルアプリの構築・運営
- **データ連携基盤開発・運営**
  - 各サービスのデータを相互活用し、価値創出・価値向上を図るデータ連携基盤の構築・運営



事務局
PMO

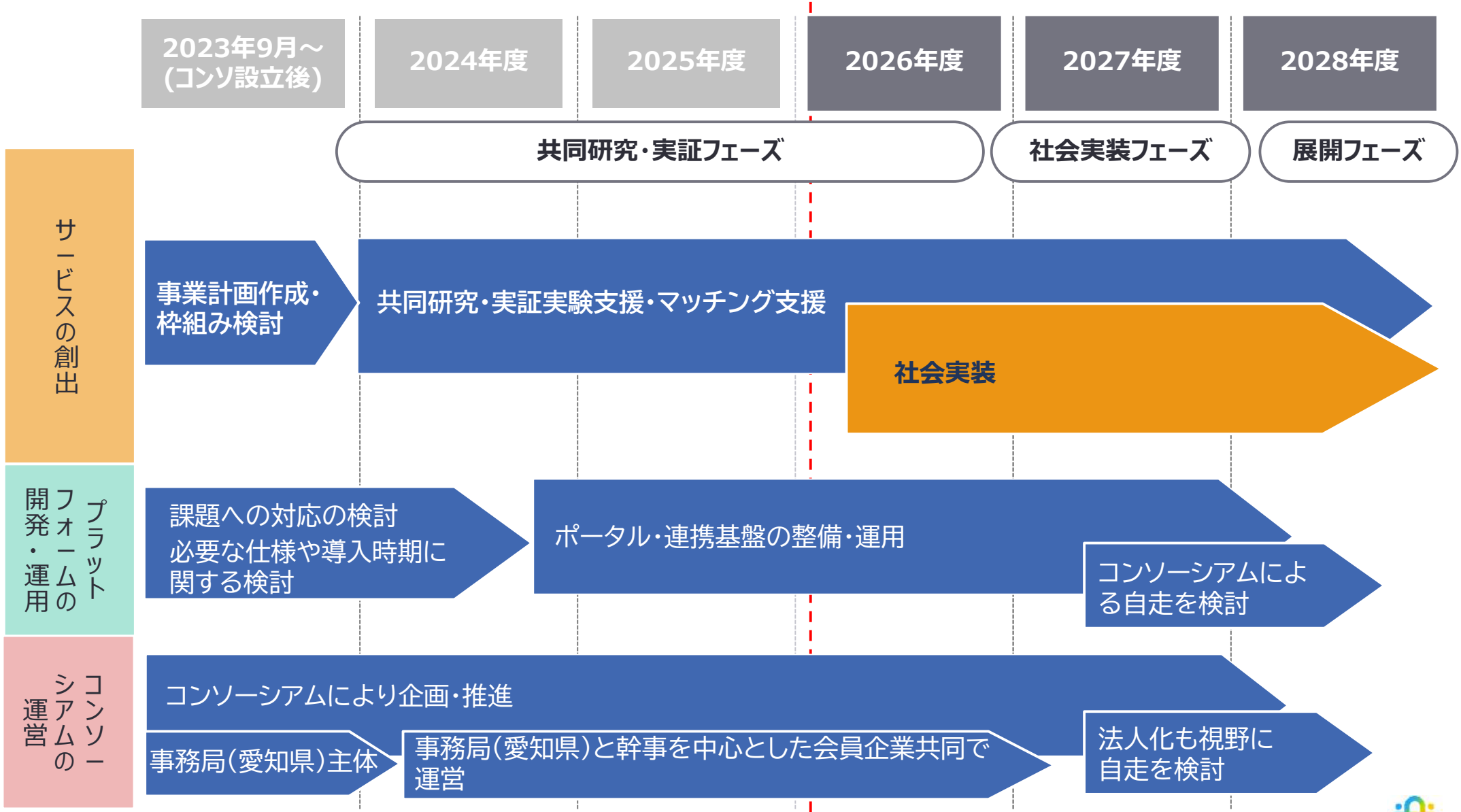
コンソーシアムの運営（以下、一例）

- **イベント開催**
  - 会員間の交流やヘルスケア領域のサービス開発におけるノウハウ習得等のイベント開催
- **各種会議体運営**
  - サービス開発に向けた会員間の連携やノウハウ共有のための分科会等の運営

各活動のノウハウ・計画・課題などを蓄積・分析し、活動間の連携・高度化を推進

2-② 事業のロードマップ

- 事業開始（2024年度）から５年を目途に、サービス・ソリューションの社会実装を目指す。
- コンソーシアムは、当面は事務局(愛知県)主導で運営し、将来的には法人化等による自走を検討していく。



目　次

1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要
①　プロジェクトの背景
②　プロジェクトの方向性と目指すべき姿
③　サービスデザイン
2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組
①　プロジェクトの構成
②　事業のロードマップ
3　サービスの創出
4　プラットフォームの開発・運用
5　コンソーシアムの運営
6　年間スケジュール

3　サービスの創出（デジタルヘルス社会実装先行事業）

➢ 「柱①：フレイルへの進行予防」、「柱②：生きがいづくり」及び「柱③：地域居住・生活支援」の３つの取組の柱に沿って早期に社会実装を目指す７つのテーマを設定し、産学官連携による新サービス・ソリューションの創出プロジェクトの実証実験・社会実装を支援する。

	テーマ名	事業者（実証フィールド）	主な協力団体
フレイルへの進行予防	ライフログデータを活用した総合的な高齢者支援	医療法人豊田会（刈谷市、豊田自動織機健康保険組合）	一般社団法人UDCKタウンマネジメント 富士通Japan株式会社
	PHRを活用した予防運動プログラム	株式会社スギ薬局（大府市/知立市/安城市）	名古屋大学
	デジタル食事改善プログラム	味の素株式会社（春日井市/半田市）	国立長寿医療研究センター
生きがいづくり	オンラインを活用した高齢者の社会的交流支援	TOPPAN株式会社（豊田市）	名古屋大学
	一人暮らし高齢者向けの外出・交流支援	株式会社スピード（名古屋市/瀬戸市）	藤田医科大学
地域居住・生活支援	音声対話ツールを活用した高齢者のICTアクセシビリティの向上	株式会社エクシング（知多市/東海市）	国立長寿医療研究センター
	対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的なモニタリング	NTT西日本株式会社（新城市）	株式会社WizWe 名古屋工業大学

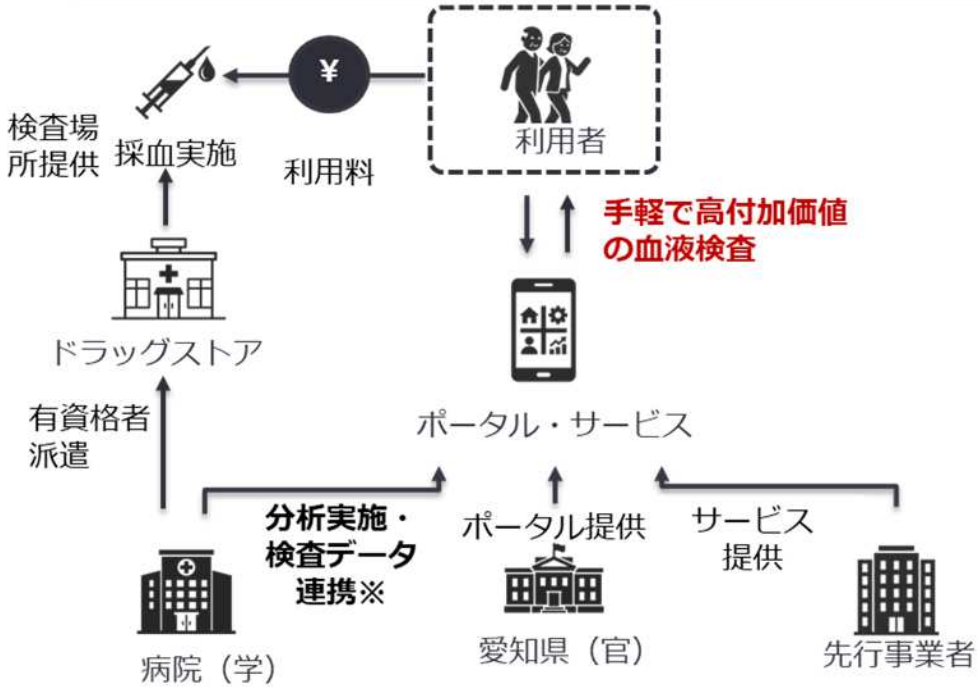
3　先行事業の実証プロジェクト：①ライフログデータを活用した総合的な高齢者支援

事業名	ADHPポータル活用によるフレイル・疾病リスク予測に基づく健康気づき提供事業
実施主体	医療法人豊田会
協力団体	一般社団法人UDCKタウンマネジメント、富士通Japan株式会社、東京海上日動火災保険株式会社、豊田自動織機健保組合　など

事業の全体像

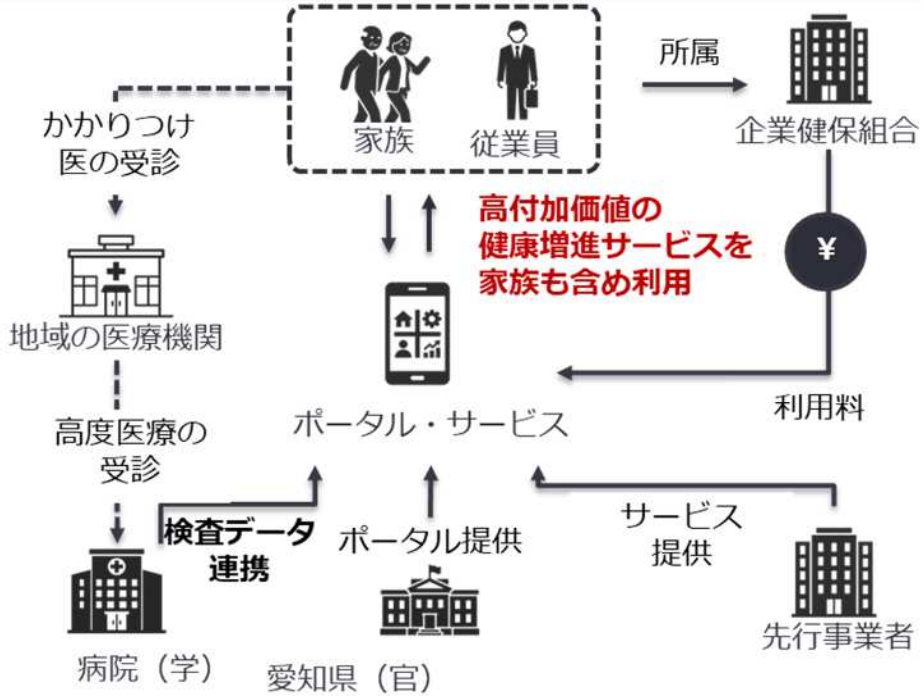
医療法人豊田会は中核病院として、ADHPポータルを活用し、地域住民の健康増進・疾病予防を目的に3施策を推進する。ライフログデータによるフレイル・疾病リスクの予測・可視化を通じた気づきの提供、医療機関の検査データをPHR基盤へ連携する仕組みおよび関連サービスの開発・実装、ならびに利用促進施策の展開によりPHR利用率の向上を図る。あわせて、利用状況および行動変容への影響について定量的に検証する。

【実証ビジネスモデル①】手軽で高付加価値の血液検査
検査データが翌日閲覧可能
自身の検査データにより、**最適にパーソナライズ**されたデジタルサービス提供



※解析室の空き時間で解析を実施することで、原価の削減

【実証ビジネスモデル②】B to B 収益モデル
モデル①のサービスを**健康保険組合員**と**その家族に提供、健保組合全体の満足度向上と地域医療機関への早期受診による、医療費適正化の効果を可視化**

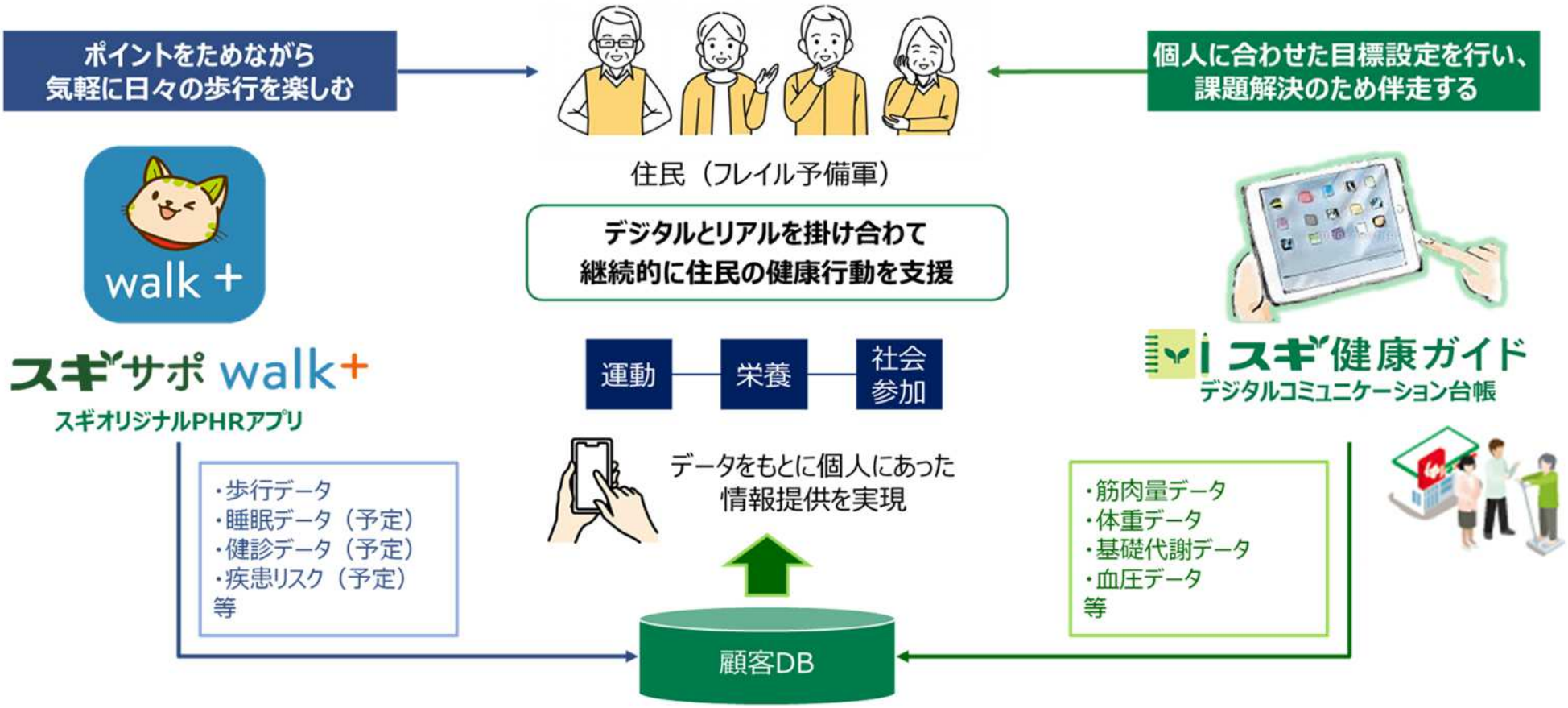


3　先行事業の実証プロジェクト：②PHRを活用した予防運動プログラム

事業名	デジタル×リアル店舗を融合されたフレイル進行予防対策 with PHR
実施主体	株式会社スギ薬局
協力団体	大府市、知立市、安城市、名古屋大学、スギウェルネス、CoMediCs

事業の全体像

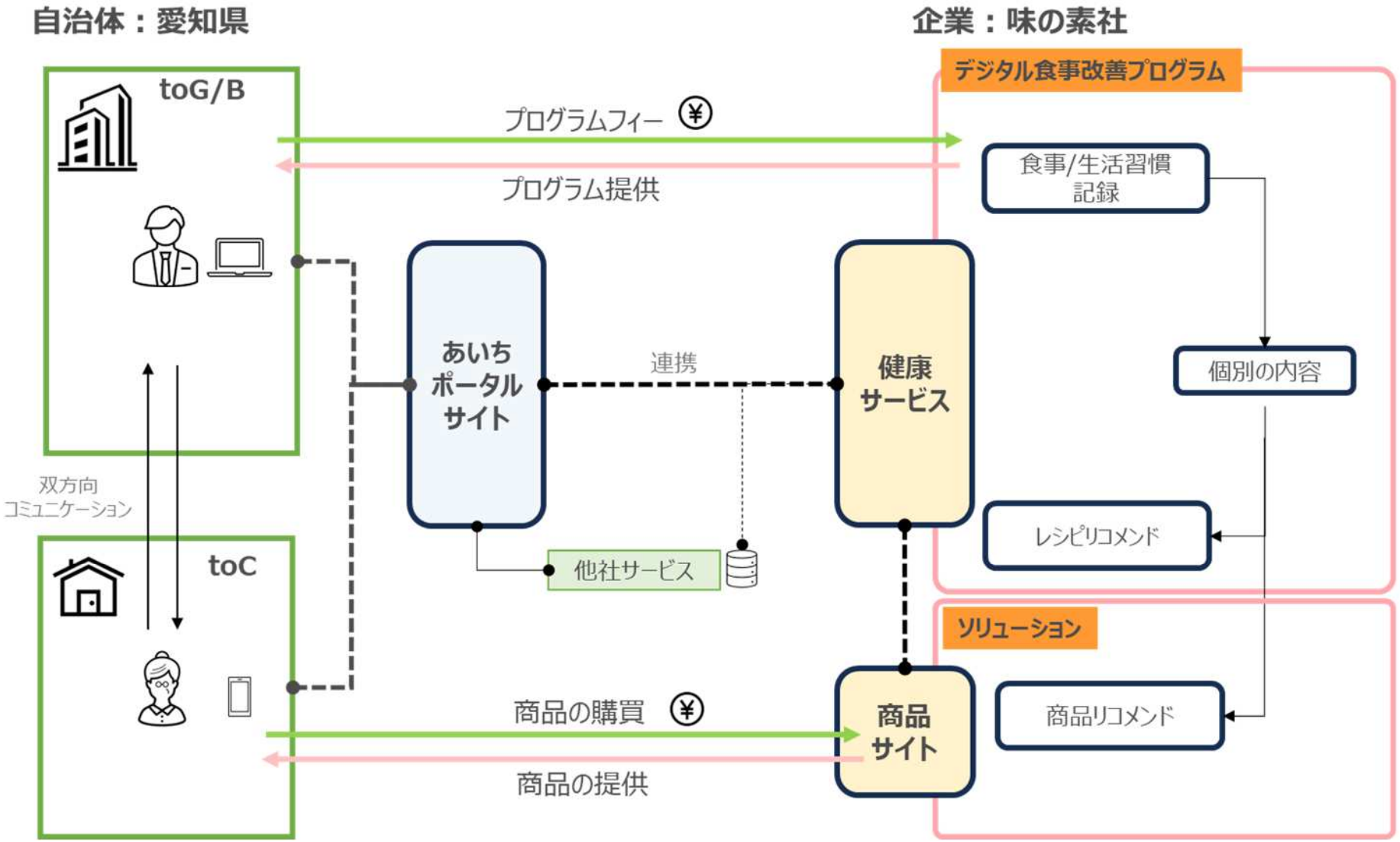
● デジタル×リアルを掛け合わせ、医学的に検証されたフレイル予防のサービスを提供



3　先行事業の実証プロジェクト：③デジタル食事改善プログラム

事業名	デジタル食事改善プログラム
実施主体	味の素株式会社
協力団体	春日井市・半田市・国立長寿医療研究センター

事業の全体像



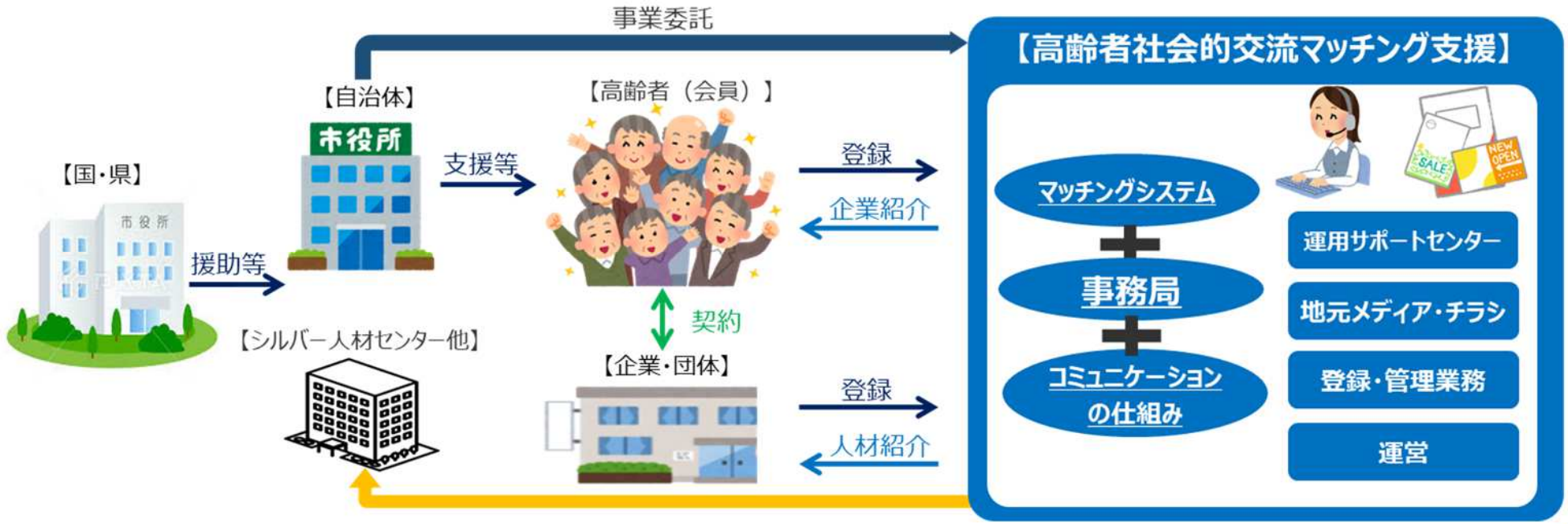
3　先行事業の実証プロジェクト：④オンラインを活用した高齢者の社会的交流支援

事業名	ICTを活用した高齢者の社会的交流支援マッチング事業
実施主体	TOPPAN株式会社
協力団体	豊田市、名古屋大学大学院医学系研究科附属iC-REX、(株)ダスキン、(株)サンデーフォークマネジメント

事業の全体像

【高齢者の社会的交流マッチング事業の概要】

- ●長年にわたる職業経験や人生経験を通じで培われたスキル・ノウハウの見える化（データベース）
- ●社会貢献活動と就労を組合わせた業種、職種や業務内容の探求および開発
  - ➢ ICT活用や交流の場を通して、新たな生きがいを発見してもらとともに地域経済の活性化を狙う。



3　先行事業の実証プロジェクト：⑤一人暮らし高齢者向けの外出・交流支援

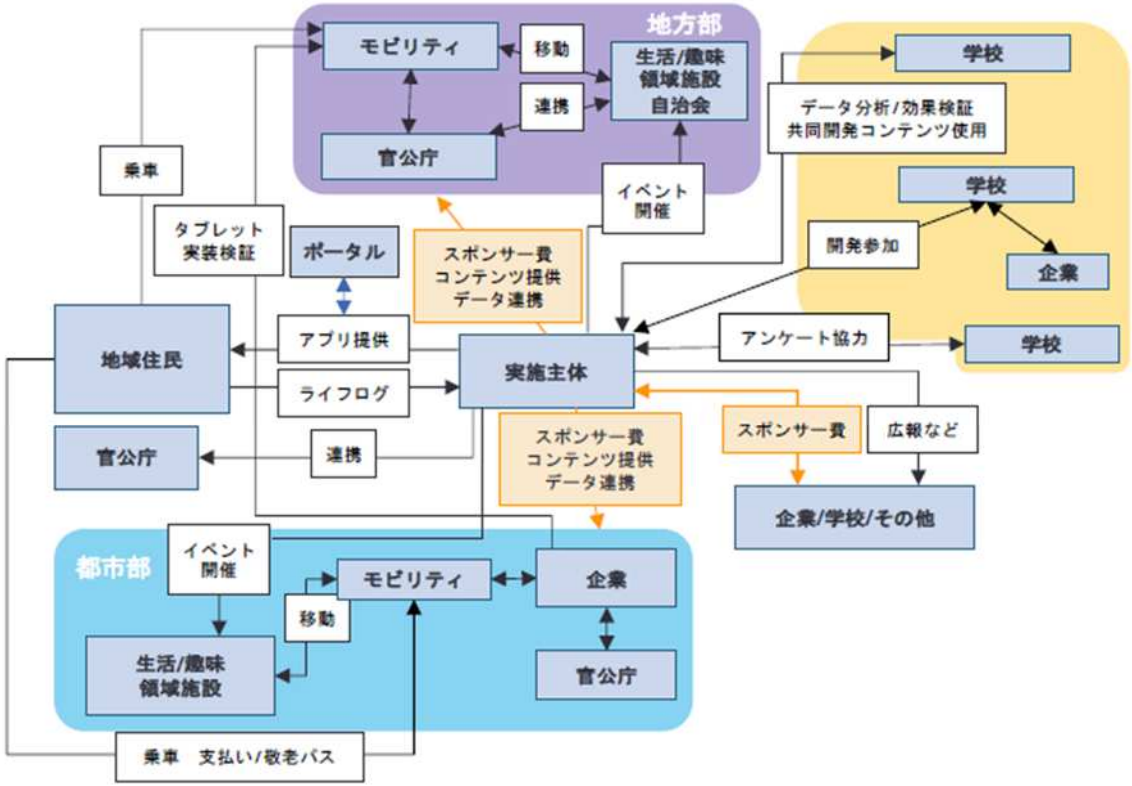
事業名	一人暮らし高齢者向けの外出・交流支援
実施主体	株式会社スピード
協力団体	学校法人藤田学園 藤田医科大学、トヨタ紡織株式会社、瀬戸市

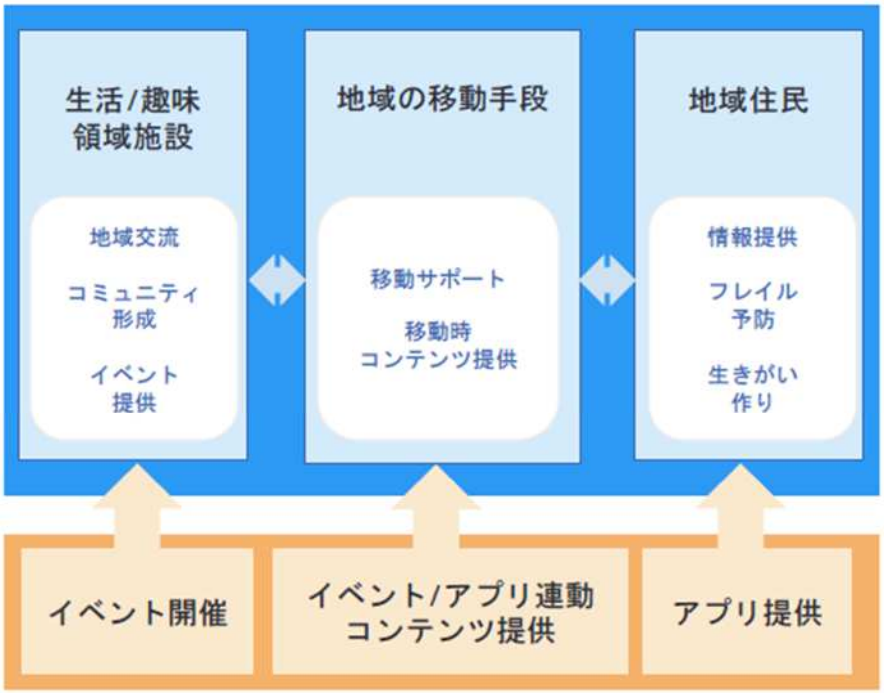
事業の全体像

近距離移動をエンタメ活用で促進　～都市編、地方編～

日常の近距離移動を増やすことで、健康促進・フレイル予防に繋げる。

- エンターテインメント性の高い「ワクワク」する、「楽しさ」を社会の中に無理なく溶け込ませ、純粋に「楽しい」と思えるコンテンツや、健康の為だけではなく「誰かのため」など、様々な動機を醸成、健康促進に繋げる。
- 「自ら進んで外出し、交流したくなる、持続可能な仕組み」を提供。
- 出掛けた先でコミュニティを形成することで、繰り返しの外出を促す。



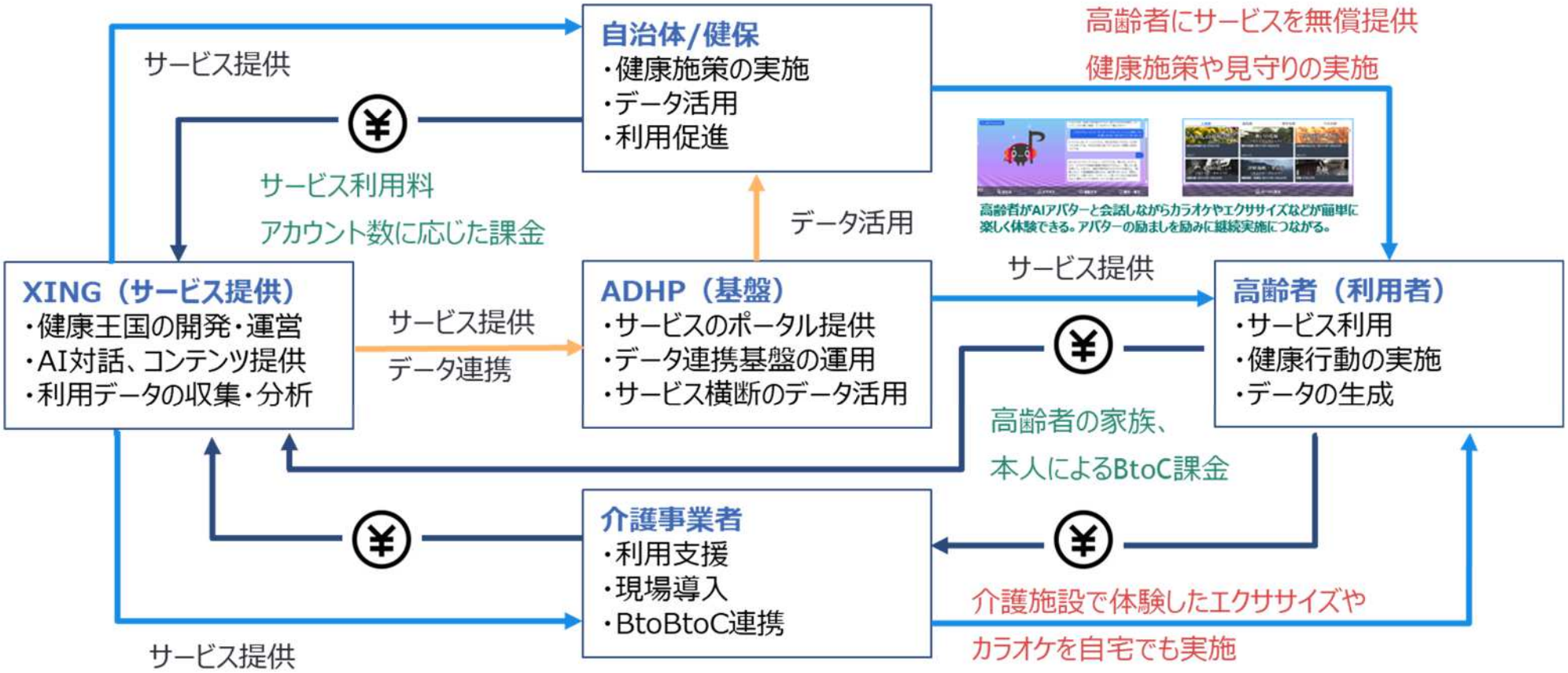


事業名	BtoC,BtoG向け健康王国（⑥音声対話ツールを活用した高齢者のICTアクセシビリティの向上）
実施主体	株式会社エクシング
協力団体	国立長寿医療研究センター、知多市、東海市

事業の全体像

デジタルの力を活用し、健康づくりや人との交流へのアクセシビリティを高めることで、高齢者が無理なく、楽しみながら社会とつながり続けられる環境の実現を目指す。

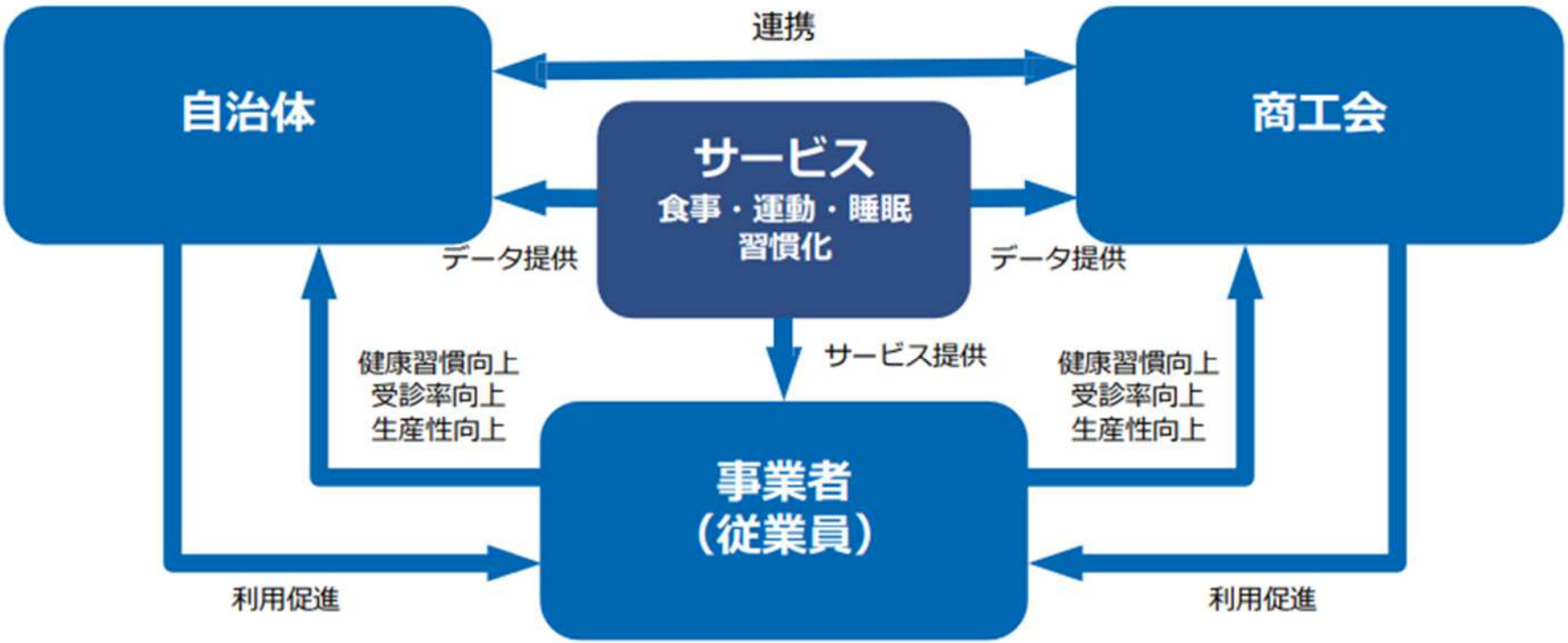
カラオケや体操といった"楽しさ"を入り口に、日常的な利用を通じた心身の健康維持や社会参加を促進するとともに、家族や介護事業者、自治体が連携し、利用状況をもとに見守りや支援を検討できる仕組みづくりを実現。



事業名	対話型ツールを用いた健康・生活機能の持続的なモニタリング
実施主体	NTT西日本
協力団体	新城市・新城市商工会・名古屋工業大学 WizWe・asken・Enjoydream Holdings・NTT PARAVITA

事業の全体像

社会課題：新城市では県下超高齢社会の最前線、地域を支える50代以上の健康寿命の延伸が急務
提供価値：従業員の食事・運動・睡眠習慣支援と改善、健康診断・がん検診等の受診把握と向上、生産性向上を支援



- 先行事業のテーマ以外に様々なサービスを創出し、社会実装につなげる事業（2025年度は以下3件を採択）
- このほか、コンソーシアム会員のサービス実証については、実証事業PRを支援する取り組みを実施

テーマ名	事業概要	実証体制
PHRを活用した循環器病予防運動プログラム	• 健診データを活用し、循環器病リスクの高い住民に対して、PHRや計測機器、オンライン運動支援を組み合わせた予防介入サービスを提供 • 健診接点でのサービス提供を通じて、利用者の受容性や利用意欲を検証 	産：**東京海上日動火災保険株式会社**、EvoCare Japan株式会社、東京海上日動メディカルサービス株式会社 学：医療法人豊田会高浜豊田病院
購買データと健康データを活用した食環境整備事業	• 自治体が保有する健診データと電子レシートサービスによる購買データを活用し、地域ごとの購買行動と健康状態の相関を分析 • 分析結果をもとに、健康的な食選択を促すキャンペーンを展開し、医療機関や保健所との連携を通じて、健康指導の質向上と自治体業務の効率化に寄与 	産：**東芝デジタルソリューションズ株式会社**、カゴメ株式会社 学：学校法人藤田学園藤田医科大学 官：豊橋市
オンライン・AIを活用した新たな「フレイル予防インフラ」の実現	• 自治体の介護予防事業の取組に、オンラインとAIを活用した「ハイブリッド介護予防教室」を実施 • AIによる身体機能評価やオンライン参加の仕組みにより、介護予防支援体制の強化や運営負担の軽減に寄与 	産：**株式会社Rehab for JAPAN**、株式会社ジェネラス 株式会社メディケアコラボ 官：あま市、稲沢市、大府市

目　次

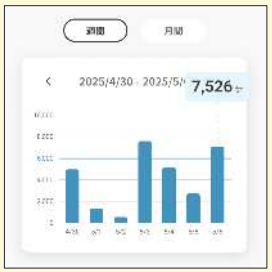
1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要
①　プロジェクトの背景
②　プロジェクトの方向性と目指すべき姿
③　サービスデザイン
2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組
①　プロジェクトの構成
②　事業のロードマップ
3　サービスの創出
4　プラットフォームの開発・運用
5　コンソーシアムの運営
6　年間スケジュール

4 プラットフォームの開発・運用（デジタルヘルス社会実装共創基盤構築事業）_ポータルのイメージ

- 本プロジェクトで創出したサービスを県民へ提供するための窓口として、ポータル（スマートフォンアプリ）を2026年7月１日から運用開始予定。
- 健康関心層のみならず、無関心層に対してもサービス利用を始めとする健康行動を促すため、歩数や消費カロリー等の日々の健康記録の確認ができる機能や、健康行動に応じて抽選券を獲得し、抽選に参加できる機能を実装する。

健康きろく（健康への意識づけ）

- 自身の健診データや、歩数・消費カロリー等の日々の活動データを確認
- 紙の健診記録をスマホカメラで撮影し、データ化することも可能



抽選券（健康行動のインセンティブ）

- 健康活動（歩数・サービス利用）に応じ抽選券を配布。抽選により景品を獲得

サービス一覧（健康行動をとる）

- プロジェクトの中で創出した、健康増進や生きがいづくりに資するサービス等を提供
- 様々なサービスを１つのID（ポータルID）で利用できる仕組みを構築

その他機能（ポータルの魅力向上）

- 実証参加等のイベントお知らせ
- ヘルスケア関連記事の配信
- アンケート　等

※　本資料は開発中のイメージであって、実際に公開するデザイン・サービス内容とは異なる場合があります

➢ 株式会社エクシングが提供する「健康王国AI（仮称）」を、ポータルを通じ提供予定
（以下のサービス以外にも、運動管理アプリ、食事管理アプリなどを順次掲載予定）

健康王国AI（仮称）：サービス概要

XING | U-NEXT HOLDINGS

AIアバターと会話することで、サービスの説明やコンテンツのリコメンド・再生を行うサービス
ITが苦手な高齢者でもAIの補助、簡素なUIにより、スムーズにICTサービスを利用可能
カラオケ、エクササイズ、クイズ・癒し・旅などの映像を楽しみながら、継続的に介護予防にとりくめる

・毎日の挨拶や雑談により、孤独感を解消
・対話による機能説明、コンテンツ利用が可能
・カラオケ・エクササイズの結果に応じたチアーを実施

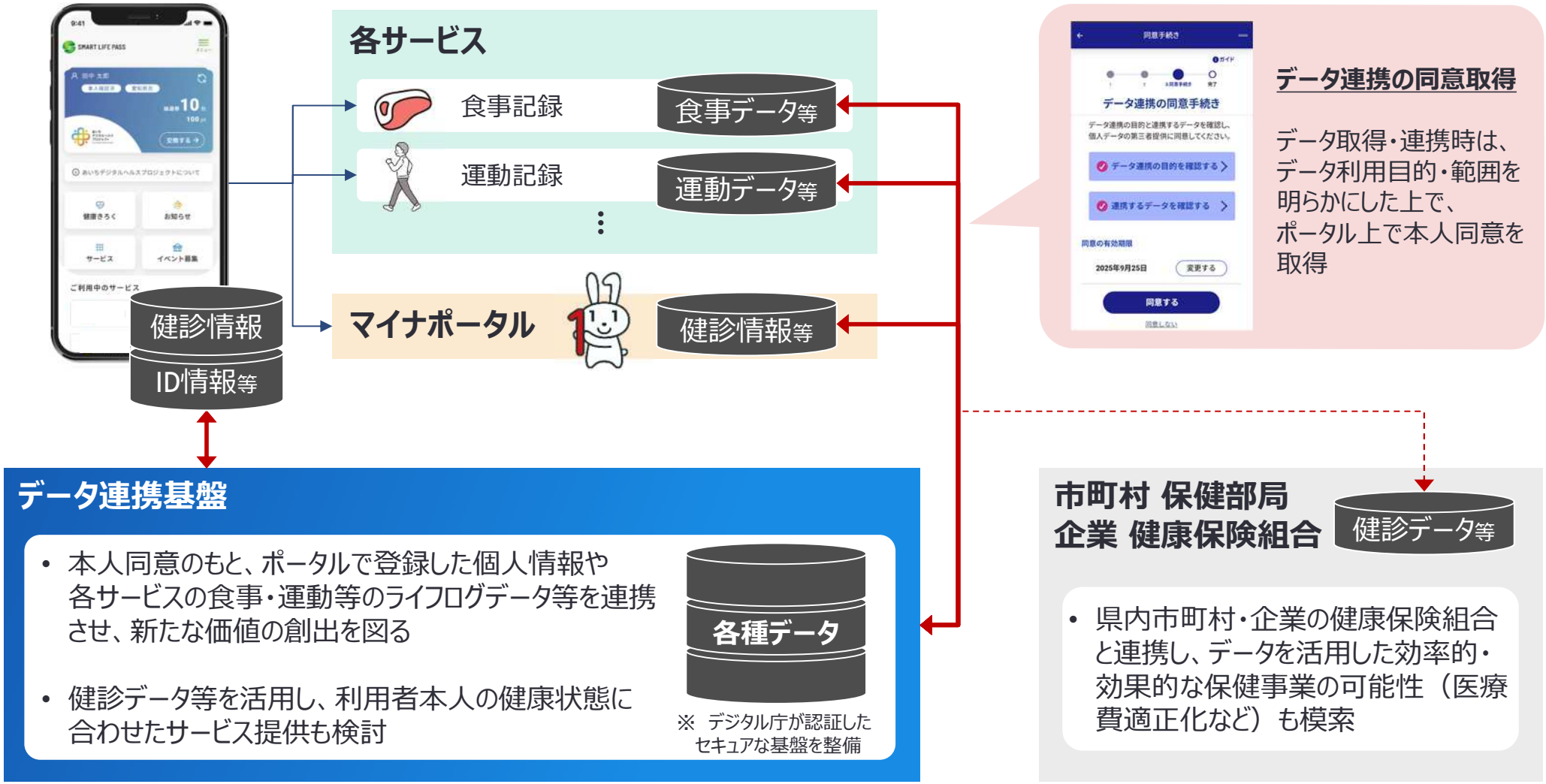
・さまざまな部位に利くエクササイズを搭載
・エンタメ要素を盛り込み楽しく継続できる
・立位・座位で誰でも実施できる

・JOYSOUNDのカラオケを提供
・歌唱履歴・実施記録の共有機能などを実装予定

・動物や観光地などを題材にした観る・癒すコンテンツ
・脳トレや疑似旅行なども体感可能

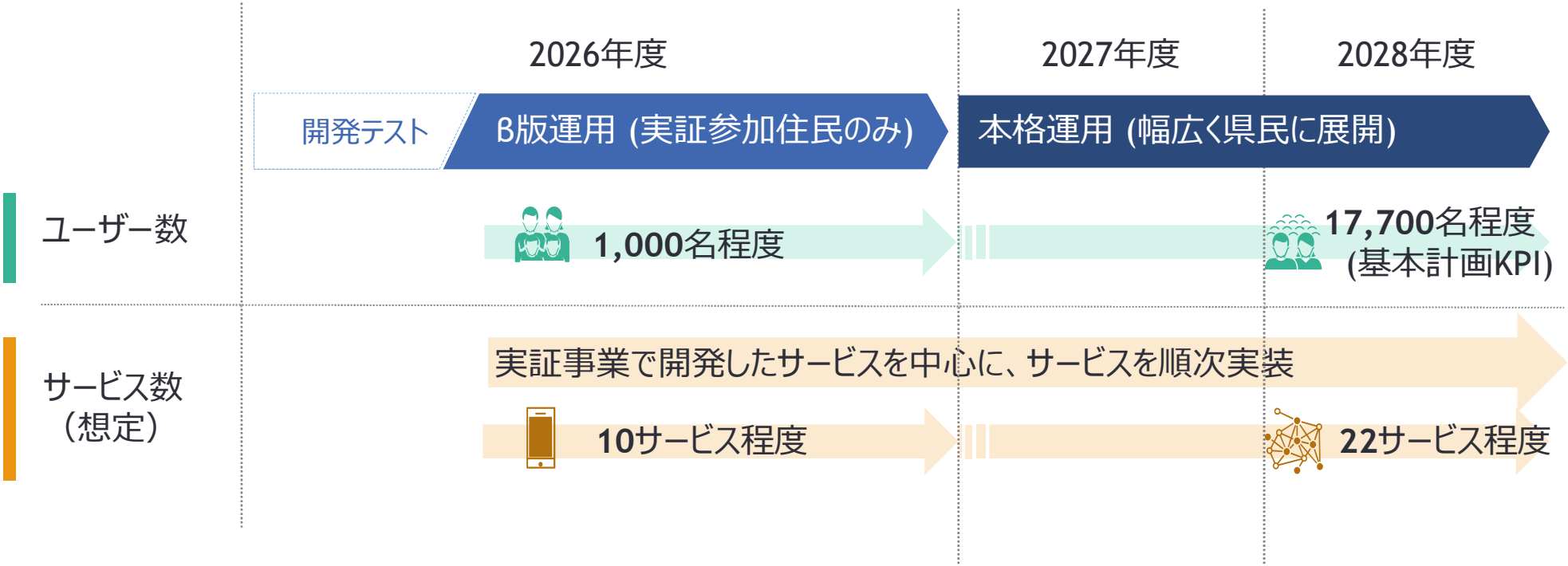
4 プラットフォームの開発・運用（デジタルヘルス社会実装共創基盤構築事業）_取組全体イメージ

- ポータルから得られた個人情報・健診情報等の各種データや、各サービスで得られた食事・運動等のライフログデータを活用し、各データの連携による新たな価値の創出を図る「データ連携基盤」を構築する。
- 具体的には、利用者本人の健康状態に併せた適切なサービス提供の実現やひとつのIDで様々なサービスを利用できるほか、市町村国保や企業健保と連携し、データを活用した効果的な保健事業の実施を目指す。



4 プラットフォームの開発・運用（デジタルヘルス社会実装共創基盤構築事業）_運用スケジュール

- 前述のとおり、2026年7月１日にβ版リリース予定。
- まずは、サービスの実証事業に協力いただいている市町村・住民の方々を主な対象としてご利用いただき、フィードバックを得ながら機能改修を行い、2027年度以降、全県展開予定。
- 掲載サービスについても段階的に拡張予定であり、ユーザーの健康づくり・生きがいづくりに寄与するポータルを目指す。

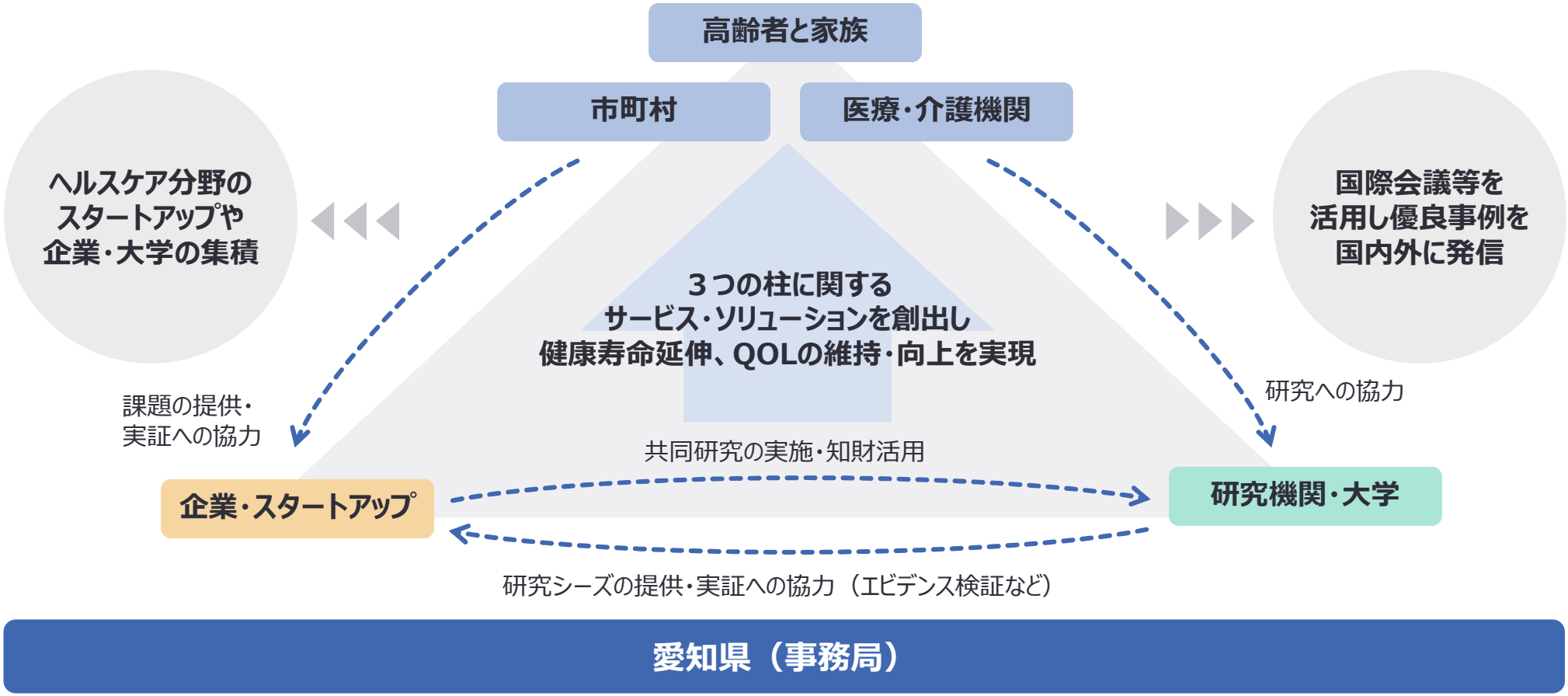


目　次

1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要
①　プロジェクトの背景
②　プロジェクトの方向性と目指すべき姿
③　サービスデザイン
2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組
①　プロジェクトの構成
②　事業のロードマップ
3　サービスの創出
4　プラットフォームの開発・運用
5　コンソーシアムの運営
6　年間スケジュール

5　コンソーシアムの役割

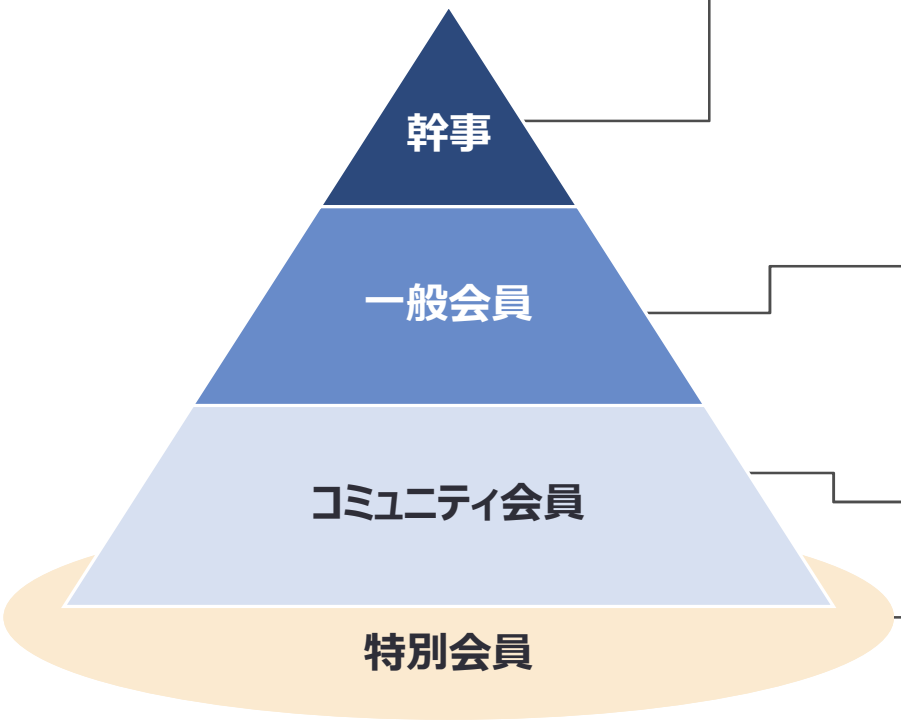
- 本コンソーシアムが中心となり、産学官金の連携のもと、**デジタル技術を活用し、「健康寿命の延伸」「生活の維持・向上」に貢献するオンラインとオフラインを組み合わせた様々なサービス・ソリューションの創出を図る。**
- 本コンソーシアムでの**成果を愛知発の健康長寿イノベーションとして、広く全国や世界に発信していく。**
- 愛知県は、コンソーシアムの事務局として、**共創が生まれる仕組みづくりに取り組むとともに、新たなサービス・ソリューションの社会実装を促進していく。**



5　コンソーシアムの体制（会員制度）

➢ あいちデジタルヘルスコンソーシアムは、幹事、一般会員、コミュニティ会員及び特別会員から構成。

会長：愛知県知事
顧問：国立長寿医療研究センター理事長
※　オブザーバー：厚生労働省老健局



幹事
- 一般会員及び特別会員から総会で選出（６名）
- 目指すべき将来像の実現に向けた、企画立案やコンソーシアムの運営などを担う

一般会員
- サービス・ソリューションの創出に向け主体的に取り組むなど、本コンソーシアムの活動の推進に参画する企業及び団体等

コミュニティ会員
- 将来的なサービス・ソリューションの創出・提供を目指すなど、本コンソーシアムの目的に賛同する企業及び団体等

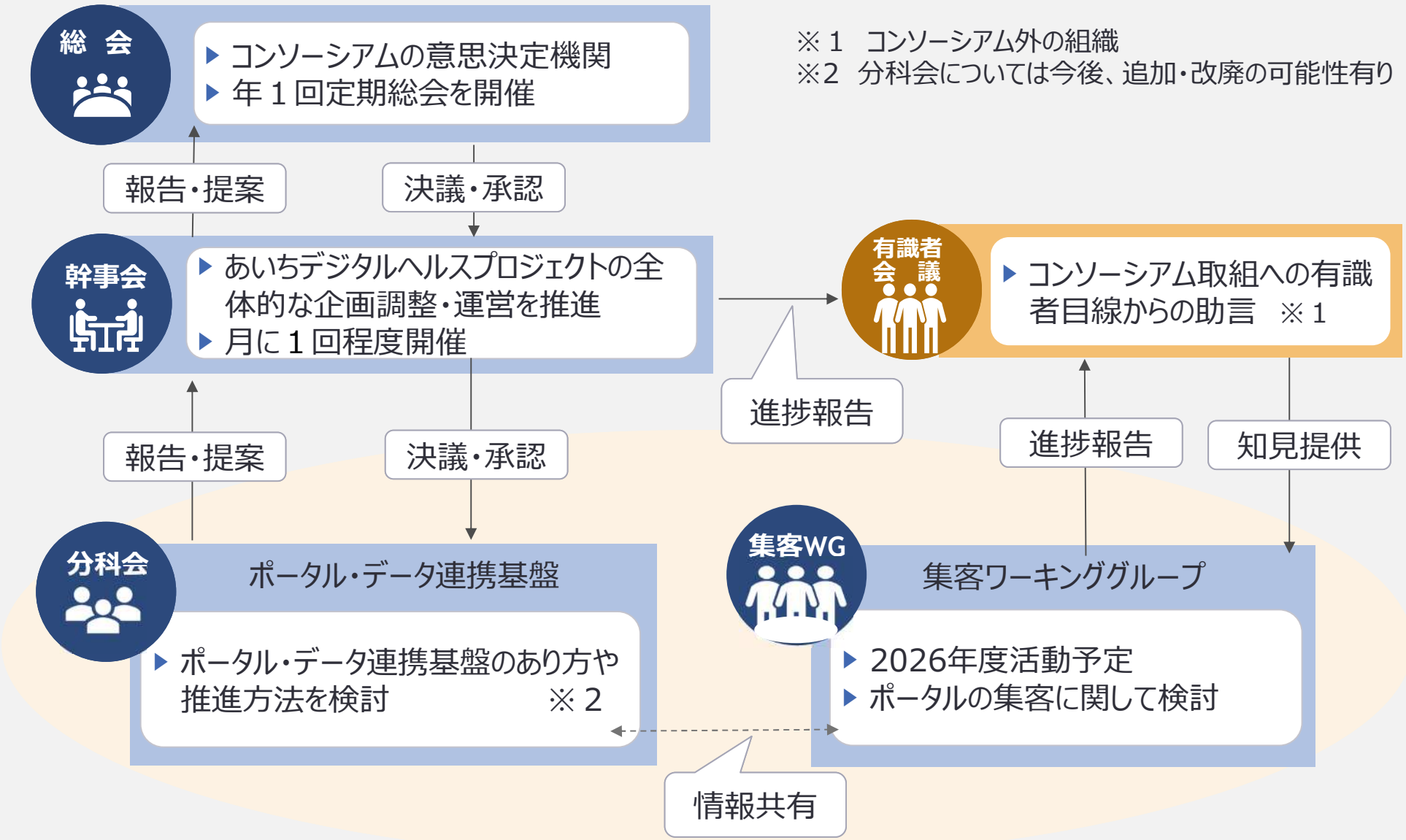
特別会員
- 実証フィールドの提供や知見の提供など、本コンソーシアムがその目的を達成するために協力を求める関係府省庁、地方公共団体、研究機関その他の団体

現在の会員情報
https://www.pref.aichi.jp/site/aichi-dhp/

5　コンソーシアムの体制（会議体）

➢ コンソーシアムのガバナンス体制として、総会、幹事会、分科会を設置し、PDCAサイクルを回していく。

<コンソーシアム推進体制図>



※１　コンソーシアム外の組織
※２　分科会については今後、追加・改廃の可能性有り

5　コンソーシアムの提供価値（将来像含む）

➢ コンソーシアムでは主に、「会員間の交流・マッチング」「サービス創出・社会実装の支援」「ポータル/データ連携基盤の提供」といった３つの価値提供を目指している。

会員間の交流・マッチング

●イベントの開催

- 会員間の交流やヘルスケア領域に関するノウハウ習得を目的にした会員向けのイベント（例会・WS・展示会）を年に4～5回程度開催

●会員向けコミュニケーションツールの運用

- コンソーシアム会員向けにslackやTeamsを運用

サービス創出・社会実装の支援

●実証事業PR支援制度の運用

- 会員が県内で実施する実証事業を県HPや会員イベント等でPR支援

●各サービスの社会実装方法の議論

- 分科会等の場を活用し、各サービスの社会実装方法について意見交換を実施。

ポータル/データ連携基盤の提供

●ポータル/データ連携基盤の構築

- 会員が創出したサービスの提供窓口となるポータルや、PHR等の連携が可能なデータ連携基盤を運用（2026.7～）

●活用方法に関する議論

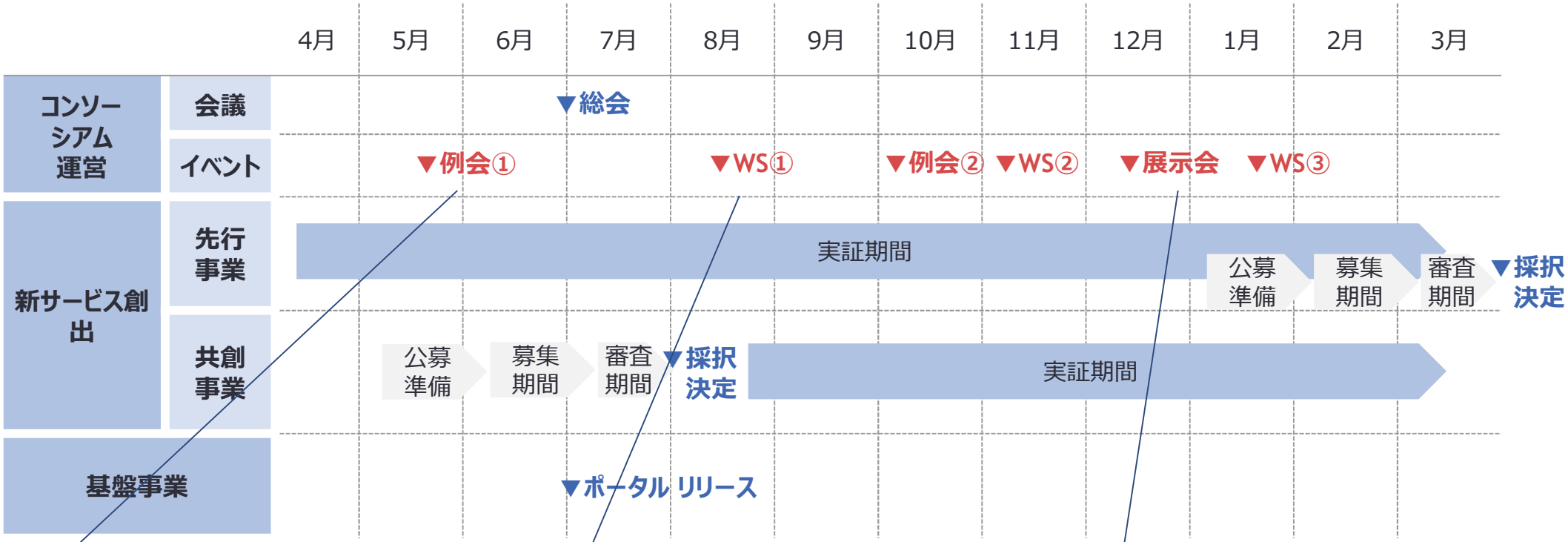
- ポータル・データ連携基盤分科会を中心に、ポータルを通じたサービス提供の方法や、データ連携基盤のユースケースについて意見交換を実施

目　次

1　あいちデジタルヘルスプロジェクトの概要
　① プロジェクトの背景
　② プロジェクトの方向性と目指すべき姿
　③ サービスデザイン
2　あいちデジタルヘルスプロジェクトの取組
　① プロジェクトの構成
　② 事業のロードマップ
3　サービスの創出
4　プラットフォームの開発・運用
5　コンソーシアムの運営
6　年間スケジュール

6　年間スケジュール

- コンソーシアム内のイベントとして、年に１回の定時総会のほか、例会、WS（ワークショップ）、展示会の開催を予定。
- 今後は、6月中旬ごろから共創促進事業の公募が始まるほか、7/1にβ版のポータルリリースする。



例会

- 事務局や参画事業者による進捗報告や、専門家によるヘルスケア動向の紹介を行うセミナー形式のイベント

WS（ワークショップ）

- 各回テーマに関心のある事業者・自治体が参加し、グループワークで理解促進と新サービスのアイデア創出を図るイベント

展示会

- 先行・共創事業の成果やでも展示を通じて、サービスの横展開と事業者マッチングを促進する。